

下野市立国分寺中学校

1 学校課題

研究主題

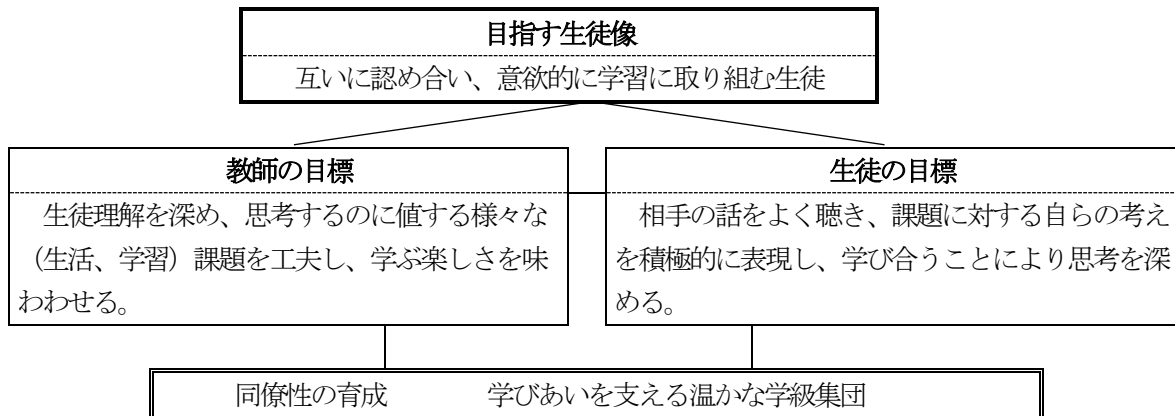
「思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実」
～生徒に学び合う楽しさを味わわせる授業づくりを目指して～

2 研究計画

(1) 研究主題設定の理由

本校では、言語活動を充実させ思考力・判断力・表現力を育成し、学力の向上を図ってきた。言語活動の充実を学習だけにとどめず、学校生活のいろいろな場面で話し合いや学び合いを利用し、生徒一人一人の良さを伸ばしていきたいと考えて取り組んでいる。これまでの研究で、生徒一人ひとりの学びを保証し、学びを中心とする授業の展開を目指してきた。その結果、生徒や教師の意識も変わり、学び合いを楽しみ、授業に積極的に取り組む生徒が増えたという手応えが感じられるようになってきている。一方で学び合いに参加できず不適応を起こしたり、表現することを苦手と感じたりする生徒がいることも事実である。我々教師は、すべての生徒に学びを保証するために、学力に関係なく仲間とともに学び合うことが楽しく、考えることが楽しいと思えるような授業づくりをすることが大切であると考え、この研究主題を設定した。

(2) 研究の構造図



(3) 研究のねらい

- ① 学びの共同体の理念を生かして授業改善を行い、生徒の学びを中心とした授業展開に取り組む。
- ② 授業公開、提案授業と授業研究会を実施し、生徒一人ひとりの学びを保証する授業の展開について学び合う。
- ③ 生徒の学び合いを支える温かな学級集団づくりや教師と生徒との柔らかな関係づくりに取り組む。

3 研究内容

(1) 研究の実際

① 学びを中心とする授業の改善

4月当初の職員会議において、今年度の研究課題についての共通理解を行った。学びを中心とする授業を展開するに当たっての方向性の確認である。同時に、社会科による学び合いを取り入れた模擬授業も行い、生徒の立場になって「共同で課題を解決する」ことの体験も行った。また、生徒対象に学習に関するオリエンテーションを行い、共同で学習することの良さ、学びの作法（授業を受ける上での約束）などを説明した。また、年に2回（7月、12月）生徒への授業アンケートを行うことにより、生徒が授業をどう感じているかを知り、授業改善のヒントにし、生徒の立場に立った学びのある授業を意識できるようになった。

② 授業研究会の充実

提案授業など一年間で必ず一人一授業を公開し、その後授業研究会を行って振り返りをした。

月	実施内容	教科
5	・アクティブラーニングについて 講師 松本敏先生 (宇都宮大学教授)	1年数学 2年国語 3年英語
6	・S&Uコラボ授業研究会 「配慮の必要な生徒への手立ての仕方」 講師 原田浩司先生 (宇都宮大学准教授) ・新規採用教員のための公開授業	1年2年1学級ずつ参観 3年社会・学活 2年体育・理科・学活
10	・学力向上専門員訪問・授業研究会 講師 綱川浄恵先生 (県教委学力向上専門員)	3年数学
11	・S&Uコラボ授業研究会 講師 松本敏先生 (宇都宮大学教授) ・授業力向上に向けての「一人一授業」	1年数学 担当学級・教科
12	・自主公開研究会 講師 佐藤学先生 (学習院大学教授) ・学力向上専門員訪問・授業研究会 講師 綱川浄恵先生 (県教委学力向上専門員)	全学級授業公開 焦点授業：3年国語 1年 英語

授業研究会では、授業で見取った生徒の学びの様子、生徒同士や教師とのかかわりなどを付箋を利用して確認し合い、どのようなかかわりが学びに有効であったのかなど話し合った。また、生徒の学びの様子を個人名で語り合うことにより、一人ひとりが学びの主人公として授業に取り組んでいることが理解できた。また、12月に行った自主公開研究会では、「学びの共同体」の授業スタイルを中心になって推進している佐藤学先生にもお越しいただき、指導と講話をいただいたことや他校の先生方にも参観していただいたことで、広い視野で本校の授業の様子を振り返ることができた。



③ 温かな学級集団づくりと教師と生徒の柔らかな関係づくり

ア 教師が生徒の気持ちを共感的に捉え、寄り添うことを軸とした指導に変えていく。教師の授業への臨み方を元気良さから安心へと変えていく。

イ 授業においても、学校生活においても「聴く」ことを大切にする。

ウ Q-Uテストや教育相談を実施することにより、生徒理解に努める。

エ 学びの作法を身につけさせる。

4 成果と課題

(1) 研究の成果

- ・自分の教科だけではなく他の教科の授業も参観することにより、いろいろな授業の展開や教師のかかわりなど共通点も多く、授業改善の参考となった。
- ・教師が授業研究会において、生徒の学びの様子とクラスメイトや教師のかかわりとの関係をしっかりと捉えられるようになった。小グループでの協議を行うことにより、全員が発言しやすい雰囲気になり、活発に意見交換がされていた。教師同士が率直に考えを伝え合う同僚性が高まってきている。
- ・生徒の授業アンケートから、難易度の高い課題でも友達と協力することによって解決できたり、自分の考えをわかってもらえたりするとき成就感や充実感を感じることがわかった。また授業の様子を見るとどの生徒も生き生きと課題に取り組んでいる様子が見られ、生徒の学びを中心に授業が改善されていることがうかがえる。

(2) 今後の課題

- ・生徒アンケートから、「聴かれたときは相手がわかるまで丁寧に説明できた。」「わからないときは友達に教えてと言うことができた。」という項目が他の項目と比べてやや評価が低い傾向にあった。これができるようになることで、わからないことの解決がなされ、学力向上につながっていくと考えられるため、「わからない。」と言っても誰かが助けてくれる、一緒に考えてくれるといった安心感のある学級づくりと授業改善をさらに進めていきたい。